

2階

対流圏ゾーン（気象体験コーナー）
 風速20メートルの風、雲の中、雷の実験などを体験することができます。



突風カプセル タイフーンボックス フランクリンの実験室



気象台のおもいで
 原子爆弾の爆風で吹き飛ばされ、壁に刺さったガラス片が、まだ、気象台の当番の様子などから被爆を知ることができます。



爆風で壁に刺さったガラス片



広島市江波山気象館は、被爆建物でもある旧広島地方気象台の建物を保存・整備し、平成4年に開館した気象と科学をテーマにした博物館です。

旧広島地方気象台は昭和20年8月の原子爆弾により被爆し、内部には被爆の傷跡が残るほか、当時の様子を描いた柳田邦男氏の小説「空白の天気図」の舞台としても知られています。



竣工当時の旧広島地方気象台（当時 広島県立広島測候所）

豪雨・暴風疑似体験

大型モニターの映像の中に自分の姿を合成し、豪雨や暴風の中にいる様子を疑似体験することができます。



体験コーナー Hands On!

体験を通して科学のふしぎに触れることができるスペースです。



※鏡を利用したいろいろな体験展示です。
 ※展示内容は変更となることがあります。

1階

映像コーナー
 「水のためび」、「広島の四季」、柳田邦男氏の小説「空白の天気図」の3番組を上映しています。

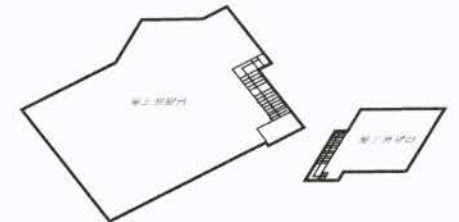


被爆保存壁
 原子爆弾の爆風を受けた外壁を保存しています。



爆風で曲がった窓枠

屋上

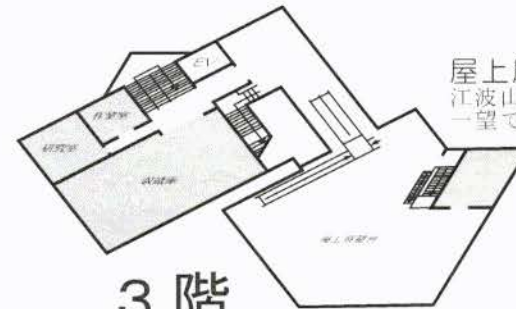


屋上展望台

江波山山頂にある気象館屋上からは、広島市内を一望できます。



3階



お天気情報コーナー

気象観測や天気予報の様子を見学したり、インターネットや図書を利用して気象の情報を調べることができます。また、相談カウンターもあり、気象についての質問や相談についても対応しています。



ミュージアムショップ（1階エントランス）

気象館オリジナルの実験グッズや、天然記念物「ヒロシマエバヤマザクラ」グッズなど科学学習に、おみやげに多彩な商品そろえてご利用をお待ちしております。